



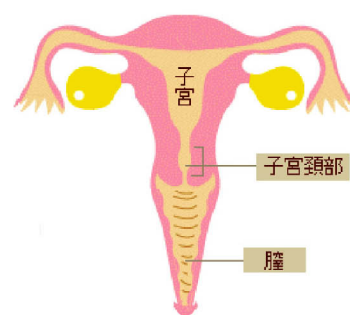
子宮頸がん 予防ワクチン

～子宮頸がんは予防できるがんです!!～

子宮頸がんでの死亡数は女性のがんの中では3番目に多いということをご存知でしょうか。子宮頸がんとは子宮の入り口付近にできるがん、HPVウイルスというごくありふれたウイルスが原因です。**また女性の80%は一生に一度は発がん性HPVに感染する**と言われています。

このがんは、初期症状がほとんどないので自分で気付いたりすることはきわめてまれですが、特に最近では20代～30代の女性に急増しています。

しかし現在では、定期的に検診を受けたり、子宮頸がん予防ワクチンを受けたりすることで予防ができるがんでもあります。子宮頸がん予防ワクチンは肩の近くの腕の筋肉に接種します。初回接種から約1か月後に2回目の接種、そして初回接種から約6か月後に3回目の接種をします。合計3回接種することで十分な効果が得られるため、きちんと最後まで接種することが重要です。



当院では
・小児科(中学生まで)と
・婦人科(高校生以上)で
対応しています。

正しい知識を身につけ、
ワクチン接種後も
1年に1度は検診を
受けましょう！

詳しくは杏嶺会ホームページ
<http://anzu.or.jp>
をご覧ください。

救急外来の紹介



救急科 部長
井上卓也 医師

救急外来
スタッフ



「苦しい、辛い思いをしている患者さんを断らない」をモットーに一宮西病院の救急科では24時間365日、診療にあたっています。西尾張地域の救急の要として常時医師が待機し、患者さんを積極的に受け入れています。

また専門的な治療が必要と判断された場合はそれぞれの専門科の医師と連携し、迅速に治療を開始することが出来ます。数々の名だたる救命救急センターを経験し、救急医学の専門、指導医でもある井上医師を迎え、新体制で臨む2011年。緊急の際には我慢せず救急外来をご利用下さい。

一宮西病院
TEL.0586-48-0077(代)

24時間365日受け入れ可能
※お電話にて問い合わせ後、来院して下さい。保険証をお忘れなく！



編集後記

極寒の冬もようやく終わろうとしています。桜が待ち遠しいころとなりました。出会いと別れの季節ですね。杏嶺会にも新しい風とともに新卒スタッフも大勢入職してきます。地域の皆様のあたたかい目で見守ってくださいね。



一宮西病院

〒494-0001 愛知県一宮市開明字平1番地
TEL/0586-48-0077(代)
まいにちブログ更新中！

HP検索は 検索

「あんずぶろぐ」
こちらのQRコード
をご覧ください。



一宮西病院広報紙

アプリコット通信



vol.6

2011年3月20日発行

発行 社会医療法人
杏嶺会(きょうりょうかい)

循環器・心臓血管外科 病棟オープン！

昨年12月、新たに循環器・心臓血管外科病棟が7階にオープンしました。医師も一昨年の移転から増員し、万全の受け入れ態勢と医療機器を完備して診療に臨んでいます。



循環器内科
部長 大野 泰良 医師

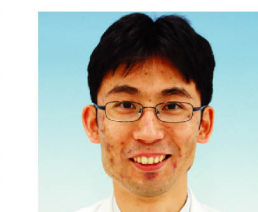
いまでも、多くの心臓疾患の患者さんを治療させていただきましたが、患者さんの循環器科へのニーズが多くなり、よりたくさんの患者さんに、より専門的で最新の治療と十分なケアを充実するべく、今回、狭心症、心筋梗塞、不整脈、大動脈瘤、心不全、末梢動脈狭窄症など、心臓から全身の血管の疾患をすべて治療できるよう、専門的な病棟として確立すべく7階病棟を新規開設いたしました。いわば、心臓血管センターのような治療病棟です。当院の医師、看護師をはじめとするスタッフ全員がより専門的な知識と技術を研鑽し、患者さんの治療にあたるよう、一宮西病院心臓治療チームとして、今後も地域のために頑張っていきたいと思います。



循環器内科
副部長 川上 徹 医師



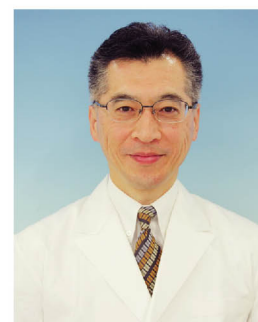
循環器内科
石原 弘貴 医師



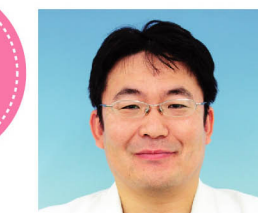
循環器内科
田中 伸亨 医師



病棟
スタッフ



心臓血管外科
統括部長 小柳 俊哉 医師



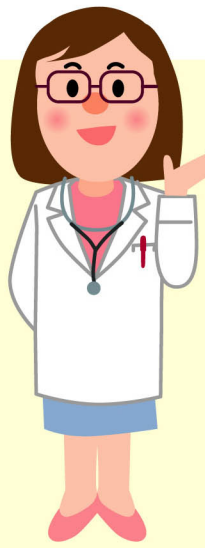
心臓血管外科
副部長 星野 竜 医師

この4月に、一宮西病院心臓血管外科に着任致します小柳俊哉です。生まれは東京上野御徒町、1984年に大分医大を卒業し、これまで心臓外科ひとすじに研鑽を積んでまいりました。3年間のドイツ臨床留学も経験し、ドイツスタイルも体得してきました。今までの心臓手術執刀数は約2000例で、前任地は熊本赤十字病院です。一宮西病院は新しい設備と充実したスタッフで、地域医療の頼れる担い手となることをめざし、これから大きく発展していく可能性に満ちている点が魅力的です。まず「いい手術」をすることに全精力を注ぎつつ、一方で「compassionate」な人間味(患者さんに寄り添う気持ち)にあふれた「外科医」であることをめざします。



2010年1月から2010年12月までの 1年間の検査治療実績の報告

●心臓カテーテル検査	…743件
●経皮的冠動脈形成術(PCI) (初期治療成功率99.6%)	…263件
●カテーテルアブレーション(RFCA)	…121件
心房細動に対するカテーテル・アブレーション	…88件
●四肢、腎動脈形成術(PTA)	…21件
●ペースメーカー植え込み術	…28件
●経皮的僧帽弁形成術(PTMC)	…1件
●下大静脈フィルター留置	…2件
●心臓バイパス術	…8件
●弁置換手術	…2件



アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎には、通年性(1年中)と季節性(花粉症)があります。症状は鼻づまり(鼻閉)、くしゃみ、鼻水があり、目のかゆみを起こすこともあります。通年性は、季節に関係なく1年中あるダニ、ハウスダスト、イヌやネコなどが原因となります。季節性の花粉では主なものに、スギ(1月下旬～5月中旬の間の2ヵ月半)・ヒノキ(3～5月)・イネ科(4～6月と8～11月の間の1.5ヵ月)・ブタクサ(8～10月)・ヨモギ(8月中旬～10月)などがあります。

検査法は、まず鼻鏡検査(鼻の中を診る)で他の鼻疾患との鑑別が必要です。次いで、①鼻汁好酸球検査(アレルギー性鼻炎は鼻汁の中に好酸球が含まれていることが多いです)②血液検査(主な原因物質に反応しているかをみます。結果に約1週間かかります)があります。

発症の予防として、第一に原因物質にさらされないことが大切です。通年性に対しては、ほこりをためないようにすることとダニの増殖を防ぐことが大事です。カーペット・たたみ・絨毯・ぬいぐるみの使用を避ける、掃除をこまめにする、シーツ・枕カバーの交換や布団を干すことが必要です。動物にアレルギーがある場合は、原因の動物との接触が症状を悪くさせます。季節性に対しては、花粉を室内に取り込まないことが大切です。帰宅時に衣服や髪をよく払ってから部屋に入り、洗顔・うがいをして鼻をかむ。花粉の飛散が多いときには外出を避け、マスクやメガネを使い、窓や戸を閉め(換気する際は、小さく開けて短時間にする)、洗濯物や布団の外干しは避ける。掃除(特に窓側)も大切です。

治療法として、薬の内服や点鼻薬があります。最近は薬が進歩して種類があり、症状や患者様の生活様式に合わせて、色々な組み合わせがあります。それでかなりコントロールされるようになりました。

改善しない場合は、鼻閉に対して外来でレーザー治療(アレルギー反応を起こす鼻の粘膜の一部をレーザーで焼きます。焼くことで、鼻にかさぶたがついて鼻詰まりを起こしますので、鼻が落ち着くまで約2週間の術後治療が必要です)もあります。効果には個人差があり、2年以上持続する場合もあれば、数か月で粘膜が腫れることがあり、その場合は追加治療をする場合があります。

鼻の粘膜を一部切除する手術(下甲介切除術)もありますが、これは入院が必要になります。アレルギー反応を起こさないように、スギ花粉に対しての舌下免疫療法が現在治験中で、平成24～25年ごろには一般でできるようになると期待されています。



ドクター講演記



2011
1月20日



リハビリテーション科 部長
関医師

新年初の講演が1月20日、三条五色町公民館で行われました。演者はリハビリテーション科の関医師。加齢とともになりやすくなる「骨粗しょう症について」お話をしました。小さめの部屋での講演となりましたが、多くの方が参加して下さい、部屋が熱気で温かった程です。規模の大きい会場よりも、ご覧になる方々との距離が近いのも嬉しいですね。



2010
12月

消化器内科 部長
森医師

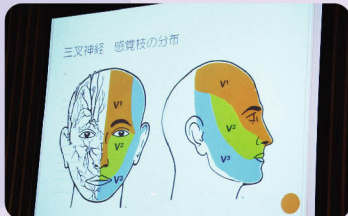
昨年の12月、ベトナム ホーチミン医科大学で経鼻内視鏡検査・治療の実技指導と講義を行いました。ベトナムで実際に経鼻内視鏡の検査・治療が行われるのは今回が初めてのこと。この様子は地元TV局、新聞各社に大きく取り上げられました。苦痛の少ない経鼻内視鏡の普及に尽力される森医師。今後も、今までに培ってきた知識と技術、そして経験を世界中に伝える森医師から目が離せません。



脳神経外科 部長
宮崎医師

2011
2月26日

一宮歯科医師会桃花会にて宮崎医師が「三叉神経痛の治療について」講演。三叉神経痛は歯が痛く感じる人が多いので虫歯になったかと思い、歯医者さんへ行ってしまう患者さんが多いそうです。歯科医師の先生方に疑わしい場合は病院へ検査に来てほしいとお話していました。



快適な時間を提供

フロアマネージャー

来院された方に少しでも居心地良く過ごして頂くために。
真心のこもった「おもてなし」を実現します。

当院では、2010年10月から「フロアマネージャー」が活躍しています。フロアマネージャーとは待ち時間の短縮や部署間の連携強化を行うことによって患者さんに快適な時間を提供する者のことです。馴染みの薄い言葉ですが、当院では従来の病院にはない患者さんへのサービスを提供すべく、すでに多くの役割を担っています。ご不便、ご意見などございましたら、是非フロアマネージャーまでお声をお寄せ下さい。



フロアマネージャー 中竹

自分なりに「おもてなし」を考え患者さんの目線で、医師を含めた現場スタッフと共に様々なサービスを提供していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。



1階、2階の受付あたりにいるので見かけたら是非声をかけて下さい。

フロアマネージャーの役割

おもてなし

- ・院内のご案内
- ・車いす等の介助
- ・受診時の説明

スタッフの接遇向上

- ・接遇研修の指導(院内スタッフ向け)

各種サービスの企画

- ・掲示物の統一化
- ・待ち時間解消アイテムの企画

アレルギー外来(小児科)のご案内

12月より、アレルギーにお悩みの皆さんを専門に診療するアレルギー外来(小児科)が始まりました。

【アレルギーってなんだ??】

いまや国民病ともいわれるアレルギー疾患。お子さんの慢性に経過する病気の中で、アレルギー疾患は代表格でしょう。…でも、アレルギーとはどんなものかご存知でしょうか?

私たちの身体は外から入ってきた異物を『自分ではない!』と認識し、排除しようとします。この仕組みが、ウイルスなど病原体を撃退するよう働く場合、「免疫」と呼びます。逆に本来たいして害もないスギ花粉やダニ、更には食物に対して、この仕組みが過剰に働き、不快な症状を起こしてしまう場合があります。これが「アレルギー」です。



【アレルギー外来は…】★

気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎、アトピー性皮膚炎、そして花粉症や食物アレルギーなど、経過が長くなりがちで、複数の症状を併せ持つことが多いアレルギー疾患のお子さんたちは沢山いらっしゃいます。その原因や症状は本当に千差万別です。当院小児科はこうしたお子さんたち一人ひとりをトータルに診療し、対応すべくアレルギー専門外来を始めました。おもに定期的な通院が必要なお子さんを対象に、予約制で行います。アレルギー疾患は、お薬による治療も大切ですが、それと同じ位に、日々のお食事や家庭内のダニ対策などが大切です。生活の場に即して、保護者の皆さまと一緒に対応を考えさせて戴く外来として、成長していければ幸いです。

小児科 アレルギー専門外来

担当医/山田 伸治医師(アレルギー専門医)

診療日時/水曜日 15:00～17:00

TEL(代):0586-48-0077 ※予約制 詳細はお電話にてお問い合わせください

【アレルギーマーチ…】♪

乳幼児から小児期のアレルギーは、成長に伴って様々な症状が出たり消えたりする傾向があります。たとえば、赤ちゃんの時期に食物アレルギーやアトピー性皮膚炎を発症、幼稚園に通うころ気管支喘息の症状がはっきりし、小学校に通う時期にアレルギー性鼻炎になる、というのが代表例です。これを行進にたとえて「アレルギーマーチ」と呼ぶことがあります。もちろん個人差や、全員が同じルートをとる訳ではありませんが、いくつかの症状を併せ持つお子さんが多いのは確かでしょう。

